

マツノザイセンチュウ抵抗性品種（クロマツ）の開発について

当センターでは、松枯れ被害を食い止める方法の一つとして、松くい虫に強いアカマツやクロマツの品種開発に取り組んできましたが、独立行政法人森林総合研究所優良品種評価委員会（以下、優良品種評価委員会）において、クロマツ1品種が新たにマツノザイセンチュウ抵抗性品種として決定されました。これまで当県が開発した抵抗性品種のアカマツ5品種、クロマツ2品種を加えると計8品種になりましたのでお知らせします。

1 概要

- (1) 昭和40年代後半以降、西日本各地で顕在化したマツノザイセンチュウによる松枯れ被害は、現在では、東北地方の各県でも深刻な問題となっており、それぞれの地域に適したマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発に取り組んできました。
- (2) 当県においては、昭和62年から松くい虫被害を食い止める一つの方法として、マツノザイセンチュウ抵抗性育種の開発に取り組んできました。その結果、平成13年度にアカマツ1品種、平成17年度にアカマツ4品種、クロマツ2品種の計7品種が抵抗性品種として決定されています。
- (3) 今回決定されたクロマツの品種は、平成14年に当センターが小高町の被害林分から抵抗性候補木として選抜し、接ぎ木によりクローンを養成したクロマツの1品種で、マツノザイセンチュウ抵抗性の1次検定を行ったものです。

今回決定されたマツノザイセンチュウ抵抗性品種

樹種	品種名	開発年度
クロマツ	福島（小高）クロマツ 203号	21

これまでに開発されたマツノザイセンチュウ抵抗性品種

樹種	品種名	開発年度
アカマツ	福島（いわき）アカマツ89号	13
	福島（いわき）アカマツ 8号	17
	福島（いわき）アカマツ23号	17
	福島（いわき）アカマツ26号	17
	福島（いわき）アカマツ32号	17
クロマツ	福島（いわき）クロマツ27号	17
	福島（小高）クロマツ37号	17

2 マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発方法

(1) 抵抗性候補木の選抜

松枯れの激害地で生き残っているマツの中から、各県や東北育種場が抵抗性候補木を選抜します。

(2) 人工接種による検定

抵抗性候補木から採取した枝をつぎ木によって増殖した苗木に、マツノザイセンチュウを人工接種し、生存率等から抵抗性の強弱を判定し、一定の基準に達したものを合格木とします。この人工接種による検定を2回（1回目：県、2回目：林木育種センターが実施）繰り返して行い、合格したものが優良品種評価委員会で新品種として決定されます。

3 当県における今後の取り組み

アカマツ及び海岸への植栽等で需要の高いクロマツのマツノザイセンチュウ抵抗性品種を開発するため、林木育種センターと連携し、引き続き抵抗性候補木の選抜及び検定を進めていきます。

また、開発した品種を抵抗性苗木として早期に普及できるよう、既に造成したアカマツ抵抗性採種園と同様にクロマツ抵抗性採種園を造成する予定です。なお、抵抗性採種園を造成してから、種子が採種できるようになるまでには年数を要することから、抵抗性実生苗木が生産可能となるまでは、抵抗性採種園から生産した種子を用いて育成した苗木にマツノザイセンチュウを接種し、生き残った苗木や抵抗性品種の穂を用いてつぎ木やさし木等による苗木を生産するシステムの確立を目指します。

(用語解説)

- ・人工接種：3年生苗木にマツノザイセンチュウを強制的に流し込む作業。
- ・生存率：調査本数のうち、健全な苗と部分的に枯損している苗の占める割合。
- ・採種園：苗木の生産に必要な種子を採取するために設けられた樹木園。
- ・つぎ木：クロマツ実生2年生苗木の主軸に、穂を接いでクローン苗木を作ること。
- ・実生苗木：種を播いて苗木に育成したもの。



写真左：マツノザイセンチュウの人工接種

写真右：抵抗性が高い苗（マツノザイセンチュウを接種しても枯れにくい）

(問い合わせ先：福島県林業研究センター 電話024-945-2160)